

What is herding?

ハーディング豆知識

羊を駆るのがハーディングだというのは分かるけど……

イヌが羊を追って何をすることがハーディング？

羊とイヌとの関係を深く知りたいあなたへハーディング豆知識



図1-A ボーダー・コリーの羊の群の囲い方

ボーダー・コリーが囲っているのは、羊の群が逃げないよう、羊の多くを囲うようにして、羊の群を囲い込んでおくこと、まっすぐいく代わりに回り込んで羊の群に近づくと、群をバラバラにしないため。



図1-B ハーディングと群の囲い方

1. 羊の群のまわりには3つのゾーン、防衛、退避、追放ゾーンがある。



図1-C 追避ゾーンに入ると、羊は侵入者から背を向けて逃げ出す。つまり、追避ゾーンは羊の群を囲い込んでおくこと、まっすぐいく代わりに回り込んで羊の群に近づくと、群をバラバラにしないため。

2. 注意喚起ゾーンに入ると、羊は群を囲い込んでおくこと、まっすぐいく代わりに回り込んで羊の群に近づくと、群をバラバラにしないため。

3. 追放ゾーンに入ると、羊は群を囲い込んでおくこと、まっすぐいく代わりに回り込んで羊の群に近づくと、群をバラバラにしないため。

羊を一つにまとめる能力
イヌの助けを借りずに、度目分まで羊の群を動かしてみれば、ハーディングという技の難しさが分かるだろう。群はまっすぐにばらけてしまし、上手く回り込んでまとめるのが全員の目標。つまり、上手く回り込んでまとめるのが全員の目標。つまり、上手く回り込んでまとめるのが全員の目標。

誇張された先祖伝来の能力
ボーダー・コリーがハーディングで見せる動作は神技の域に達している。とはいってもそれはある日突然、神様から授けられたものでもなく、食肉動物イヌ科として本来持っていた一連の捕食行動の一部が誇張された結果と考えればよいだろう。

い動作として、狙いを定める一忍び寄る一追いかけ
その部分が抽出された結果が牧羊犬のパフォーミング。牧羊犬のみならず、捕食行動の一部が特殊化された犬種には例えばレトリバーがいる。獲物を探す一つがむ

の部分が強調され、ハンターの助け人として獲物回収に専らしているのだ。だからといって牧羊犬もレトリバーも本能に任せて勝手に仕事をしているのではなく、これら行動のレパートリーをどのタイミングでどの程度を見せるべきか、人間がコマ



ハンガリーの牧羊犬、プリー、体のポジションで羊を動かす



ドイツのオールド・シェパード、ボーダー・コリーのハーディングとは全く違ったタイプの羊を動かす



同じくハーディングのメキシコ、ジャーマン・シェパード・ドッグ、やはり体のポジションで羊を動かす



オランダの牧羊犬、シャープドース、ルーヌイに匹敵する牧羊犬



スペインの牧羊犬、カカロコアン・シェパード



羊を動かすタイプは性別に関わらず、雄イヌが強い。左下はハーディングを行うボーダー・コリー

表1 シーブドッグの種類			
ハーディング・シードッグ	ヘーダー	アイ 目の動きを まっすぐ動かす。	ボーダー・コリー、ケルビーなど
	ルーサー・アイ	フリート、ピアデッド・コリーなどほとんどのシードッグ	
ハンタウェイ	ルーサー・アイ	体の向きで羊を動かす。	デンマーク、英のレトリバーを伴わない、決められた範囲内で群を一つにまとめることに専らなタイプ、G・シェパード等
	ハンタウェイ	羊や牛のかかとを踏みながら、群を動かす。コーギー、オーストラリアン・キャトル・ドッグ等	
羊とシードッグ	羊に付随するイヌだが、ハーディングは行わず番犬としての役割を、グレート・ピレニーズ、クーパーズ等		

種々なハーディング・ドッグたち
ボーダー・コリーを例に挙げてみる。ボーダー・コリーが地面に着地したとたんタタリと動作を止め、体を低くしボールを覗きつけている。犬の姿をみたことがある人は、体を低くする行為はボーダー・コリーのシンボルともいえる。英語ではクラウンシットといわれ、狙いを定め狙いをつける動作はアイ(eye)といわれ、狙いという。教えずとも適度に人についており、だいたい半後脚1回週目日に発現する。そしてこの動作が羊にプレッシャーをかけ、群を動かす。一般にボーダー・コリーのような牧羊犬をアイ・ドッグといふ。このグループに属するのは他にケルビーがいる。

羊の気質によって使い分け
例えば見かけが好きたからといって、ために牧羊犬種をハーディング作業にチョイスしていいわけではない。追う対象となる羊の気質(牧場が監視している地理的要因もある)に合った牧羊犬種で作業はこなされるものだ。



図2C ハーディング・テックニックの相違
イヌの種によってハーディング・テックニックは異なる



アイ・ドッグの中でも「アイ」の程度には差があり、タイプに分かれている。アイが極端に強いイヌにニュージランドのボーダー・コリー、ストロング・アイ・ドッグというのがある。羊のわずかな動きに非常に敏感で、眼み

をたくさん使ったイヌは、アイの度合いが低いイヌはコリーのオリジナルタイプに近いもの。例えばウェルシュ・コリーなどがそうで、目を動かすのが体の向きによって羊を動かす。

さらに例に挙げるという牧羊人のカテコリーもあり、家畜の群に時々バクッと噛み付きながら追うスタイルを取る。おなじみコーギーやオーストラリアン・キャトル・ドッグはここに属する。ヒラー(二頭)と対照させ、アイやルーネ・アイ連はヘダー(二頭)とまとめて呼ばれることもある。

一頭は牧羊犬といっても、家畜の気質のタイプの数だけ、牧羊犬種がいるのが分かる。それによらず、獲物のタイプによって様々な牧羊犬種があるのと同じく、羊に合わせたイヌが進化した牧羊犬種の世界は多種多岐にわたる。興味はつきないものである。

こんな学校、見たことないぞ! ボーダー・コリー飼い主御用達、 牧羊犬学校とは?

ヨーロッパにはなんと牧羊犬学校なるものも存在していた!
こりゃ、牧羊犬出身のワンには耳寄りな話。「僕も入学したいよ〜」という日本のボーダー・コリーの声が聞こえてきそう。



牧羊犬学校の校長先生、モウドさんとその愛犬



ハーディングドッグの動物はいわゆるイヌとダグズをするもの。私の犬舎に白羽でイヌが動くように訓練するのです。とモウドさん。最初はリードを使って



牧羊犬学校には数十頭の羊がいる。「羊の全てに名前をつけています。私にとってはみんなペットなんです」とモウドさん

珍しい牧羊犬養成所

さすがに牧畜文化のメッカだけあって、ヨーロッパには随分とユニークな牧羊の学校があるものだ。その名も「牧羊犬学校」。所はスウェーデンの南部。牧歌的田園風景が美しいスウェーデン地方。ドッグ・スポーツ大田であるスウェーデンでも、この学校は国内唯一、牧羊犬オンリーを養成する訓練所だ。

日本ではあまりなじみのない牧羊犬訓練だけに、その訓練とは一体何をやるものなのか興味津々。この学校の創立者、モウド・レンペリー先生にコースの内容をきいておろかいた。

「ハーディングという作業は普通の訓練競技と違って、人間がイヌに芝を押し付けて、ハイ、それで降り、というわけにはいきません。ハーディングのいうのは、を一歩よく知っているのはイヌ。人間はその能力においてイヌにはありません。そこでそのイヌ達の能力をどう活かすか、いかに彼らに協調的に作業をしてもらうか、人間に知識が必要となります。これを私たちが学ばずには、いくら牧羊犬を羊の群へ放しても、ハーディング作業は不可能なですね。」

先生によると、イヌだけではなく羊の動作の習性もハンドラーに必要な知識でも。結局、牧羊犬訓練とはいっても、本当に訓練が施されるのはイヌよりもむしろハンドラーの側であるようだ。モウド先生の牧羊犬学校というは即ち「羊飼いの養成学校」ということになるのかもしれない。



向きを変えさせることによってイヌの神経を人に向けて。そしてイヌが人の動きについてきたら、発動するのを待たずに!

ダンス・ウィズ、 ハーディング・ドッグ

授業は、イヌを羊に慣れさせることから始まる。これでイヌがハーディングに目覚めてくれればしめたものの、たいていの場合はうまくいくと云う。

「牧羊犬ですからね。すでに体の中にその本能があります。問題はこれの先、牧羊犬だからハンドラーより早くハーディングについて学んでしまうんです。それでハンドラーは羊人に追いつくためにイヌと羊をより深く理解しなければなりません。」

イヌを羊に目覚めさせた後は、ひたすら人間(ハンドラー)への教育だとモウド先生は言う。

ボーダー・コリー だけではなく

牧羊学校にはボーダー・コリーのみならず、様々な牧羊犬種がハーディングを習いにやってくる。シェパードや、ベルジアン・グレート・ピレネなどをハーディングを教えた経験もあるようだ。

「こんなイヌ、羊道えない。もう訓練諦めなよ。とか誰かに言われ、うちにやって来る飼い主さんいますね。しかし、牧羊犬種ならチンキスさえ与えられれば、たいてい羊を導くものです。そのイヌなりのやり方だね。どのイヌもボーダー・コリーのようにハーディングを学ばなければならない、というのを認識すべきです。」

先生は決してイヌに無理強いをさせて動作を教えることにはしない。そんなことをすればイヌの気持ちをより不安定にし、ストレスを上げるばかりで、上手にハーディングをしていけるようになるからだ。どんな犬種を扱おうとしても、彼らの持つハーディング能力には限界ではなく、それをこちらが探し、使わせるように訓練するだけ、それが優秀な牧羊犬を作るコツだそうだ。

イヌの自主性と協調性、モウド先生の牧羊犬訓練哲学だ。それはハーディングに限らずアジリティやその他のドッグ・トレーニング全てに通ずるキーワードではないのだろうか。

と云ってスウェーデンでモウド先生は「心理学的牧羊犬訓練者」という評判を持つトレーナーである。その意味、みなさんも納得できるよね。



モウドさんはボーダー・ランゲージを大切に利用して訓練する。イヌが勝手になにかをすれば、声を出さずに「閉んで」声ばかりで「声よけ」で「声よけ」の方イヌも理解します。



群の動物と関わるのは、みな動物がどこかでシンクロナイズしているのです。例えば羊を見て興奮しない、みんな同じ方向に目を向いているでしょうか? イヌと人が目を合わせるときも、この習性を利用するのです」とモウドさん。

自信を持って、人間と共に働くことができるようになるそうです。

ハーディング・ドッグ・トレーニングのことをダンス・ウィズ・ドッグスとモウド先生は呼ぶ。ハンドラーの出すハンド・シグナルにしっかりと応じ、そのとわりイヌが動きをこなしてくれるのは、一人一匹の間に歩調の合ったダンスが進行しているというところからくる。

イヌの協調心の培い方を教えた後、初めてモウド先生は実際のハーディングに必要なテクニ

